

【地域活動ノート】

## 小川町におけるメディアミックスによる 観光プロモーションの取り組み\*

小泉亮汰\*\*・遠藤柗一\*\*\*

### 活動の概要

城西大学現代政策学部庭田政策ゼミナールⅠ（3年生）では、グループワークによる大学周辺の観光プロモーションを通じて、地域の活性化を目指している。その中で、私たちのグループは埼玉県小川町の観光プロモーションをメディアミックスで行っている。私たちは、小川町を舞台としたドラマ、小説、そして撮影時のエピソードを収録したオーディオコメンタリーを同時に展開することで幅広い層に小川町の魅力を訴求することを意図している。

キーワード：小川町、観光プロモーション、メディアミックス

### 【埼玉県小川町で観光プロモーションを行う意義】

近年、新型コロナウイルス感染症拡大により観光の在り方が変わってきており、長距離移動を避け、人との接触回数が少なくなるような感染リスクの低い観光が求められている。このような趨勢の中で、地元観光<sup>1</sup>が注目されている。地元観光とは、自宅から1～2時間圏内にある近隣の宿泊観光や日帰り観光のことをいう。

このプロジェクトも埼玉県小川町の地元観光を推進したいという思いから始まった。小川町は綺麗な川や緑あふれる山々など豊かな自然に恵まれ、酒蔵や和紙作りなどの伝統文化が歴史的な町並みに根付いている。そして小川町は都心からのアクセスが良く、電車だと1時間程度で行くことができる。私たちは、この地域の魅力と立地を活かし、都会での生活に息苦しさや疲れを感じている人に対して、小川町の自然と伝統文化でリフレッシュしてもらうということをテーマに、小川町の地元観光の推進を目指している。

### 【メディアミックスにより期待される効果】

メディアミックスとは、複数のメディアを組み合わせ、それぞれの相乗効果を狙う広告戦略をいう。私たちは、より幅広い層に小川町の観光的魅力を知ってもらえるよう、この手法を観光プロモーションに取り入れている。具体的には、小川町を舞台にしたオリジナルドラマやオリジナル小説、オーディオコメンタリー（ラジオ動画）の作成を行っている。こうしたそれぞれのメディアが小川町の観光的魅力を知るきっかけとなり、また、各メディアの内容はそれぞれのメ



\* 本活動および本稿の執筆に際しては、ゼミナールの担当教員である庭田文近先生（城西大学現代政策学部教授）にご指導いただいた。

\*\* 城西大学現代政策学部3年生・庭田政策ゼミナールⅠ プロジェクトリーダー

\*\*\* 城西大学現代政策学部3年生・庭田政策ゼミナールⅠ ゼミ長

1 このことを（株）星野リゾートではマイクロツーリズムと称している。

アとストーリーがリンクしている。これにより、視聴者は、沢山用意されている中の1つの入り口に興味を持つと、小川町の魅力を様々な視点から知れるようになっている。

オリジナルドラマは、小川町の魅力を紹介しながら、物語が進んでいく内容となっている。オリジナル小説は、普段動画を見ない人に向けて、オリジナルドラマを小説化した内容となっている。オーディオコメンタリーは、私たちがドラマの撮影で小川町に行って感じた魅力を、日常会話のようにゆったりとした雰囲気です大学生同士が会話をする内容となっており、ラジオ感覚で聴くことも出来る動画になっている。また、これらの作品・メディアは、YouTubeとTwitterで発信することで、幅広い世代に向けたプロモーションとなるようにしている。

## 【活動記録】

日付	活動	概要
7月20日	フィールドワーク	・小川町観光案内所、小川町駅前商店街、晴雲酒造、小川町役場の訪問 ・観光プロモーション作品のコンセプト固め
7月～9月	グループディスカッション	観光資源のピックアップ、脚本制作
9月7日	第1回撮影	小川町駅前
10月1日	第2回撮影	仙元山見晴らしの丘
12月3日	第3回撮影	おからドーナツ、道の駅おがわまち
10月～12月	編集作業（第1話）	動画編集・レコーディング
11月	オーディオコメンタリー制作（第1話）	ドラマ出演者の座談会収録
12月	小説執筆（第1話）	ドラマ第1話に基づいた物語
11月～12月	ゼミ内カンファレンス	作品の試写・批評・修正
11月3日	動画公開	YouTube城西大学現代政策学部庭田文近研究室チャンネル
11月4日	小説公開	Twitter庭田文近研究室(城西大学現代政策学部)
12月5日	オーディオコメンタリー公開	YouTube城西大学現代政策学部庭田文近研究室チャンネル
以下、第2話の制作		

## 【地域活動を通して得られたキャリア形成への効果】

私たちは、本プロジェクトを通して、企画の立案から実行・検証に至るプロセスを経て、経済産業省が提唱する社会人基礎力のうち、とくに「課題発見力」「計画力」「実行力」が身に着いたと自負している。

「課題発見力」については、教室内での資料解釈・文献読解だけではなく、フィールドワークや現地の人からのヒアリングを通して、小川町の観光資源の発見およびプロモーションの課題を抽出することができた。

「計画力」については、本プロジェクトが4年次まで続く長期のものであり、最終的なゴールの設定、ゼミ生および撮影先とのスケジュールの調整を通して、観光プロモーションの課題の解決を考慮し、自分たちの作品を計画的に制作・公開するノウハウが得られた。

「実行力」については、何度も現地を訪れ、撮影・編集し、ゼミ生とのカンファレンスを経てより良い作品になるようなプロセスを経ながらも、公開目標日を設定し確実に制作を進めていくための力を得ることが出来た。